

第14回千葉県脳卒中等連携の会に寄せて

公益社団法人千葉県医師会
会長 入江 康文



皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、診療でお忙しい中、当連携の会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

脳卒中連携パスを検討することから始まったこの会も今年で14回目となりました。ポストコロナに向かったの時期での開催となりますが、コロナ感染症は医療提供体制のあり方を再考するきっかけとなりました。コロナ患者の入院を診る急性期の医療機関や回復期の後方支援などそれぞれの医療機関の役割が明確化しました。一方で入院できず、在宅で過ごす方への在宅診療や介護、発熱外来やワクチン接種を行うかかりつけ医のあり方も制度として議論されています。地域全体でどのような医療体制を組むのか、多職種連携をベースとした入退院の仕組みや医療介護連携を深化させていく必要があります。

特別講演の香取照幸先生からは、「2040年の医療・介護」としてお話を伺います。脳卒中・循環器対策基本法が施行され、第8次保健医療計画の内容が煮詰まっています。2024年はトリプル改訂を控えており、これからの医療・介護について、お示しいただけるものと思います。

また、今回のテーマは「継続のための連携」です。病院と在宅の垣根をなくし、地域に全体としての連携を深めていくのか大きなテーマです。同時にこの会はオンライン開催でも400名以上の参加があり、これだけの人数の多職種が一堂に会し、討議できる本会の仕組みは、他に類を見ません。皆様の日々の取り組みの発信場となり、職種間・職種を超えた討議がなされ、現場に生かされていくことを祈念いたします。

結びに、ご講演、シンポジストをお引き受けくださいました方々に、また3年連続のWEB開催にあたり、ご尽力くださいました方々に、厚く御礼を申し上げます。